

新地域密着型金融推進計画

(平成 19 年度～20 年度)

平成 19 年 11 月
桐生信用金庫

新地域密着型金融推進計画（19年度～20年度）

桐生信用金庫

1. 基本的な考え方

当金庫は、大正14年2月14日、桐生市に創立されて以来、80年余の長きにわたり地域金融機関としての役割を果たすべく営業を行ってまいりました。平成17年4月には、創立80周年を機に「ホームバンクきりしん」をコーポレートスローガンとし、信頼される金融機関として将来にわたって地域と共に発展していくことを目的として、新たな経営理念体系を改定整備しました。

私たちは、この新たな経営理念・基本方針を柱として「ホームバンクきりしん」の実現（地域になくてはならない金融機関としての存在意義の確立）を目指すことが、地域密着型金融の推進計画そのものであると考えています。

桐生信用金庫 コーポレートスローガン
「ホームバンク きりしん」

桐生信用金庫 経営理念

私たちの使命は、もっとも身近な金融機関として地域社会の発展に貢献することです。私たちは、地域の皆さまと強い信頼関係を築きながら、公共的使命と、社会的責任を果たす、地域になくてはならない金融機関でありつづけたいと考えています。

桐生信用金庫 基本方針

『ホームバンクきりしん』宣言

私たちはもっとも身近な金融機関として次の5つを宣言します。

- ・ この街のホームバンクとして、豊かな暮らしを応援します。
- ・ 質の高い金融サービスをお届けし、事業の発展を支えます。
- ・ 健全で透明な経営に徹し、地域の信頼に応えます。
- ・ 人間性豊かな人材を育て、地域の繁栄に貢献します。
- ・ 明るく風通しの良い職場をつくり、役職員の夢を育てます。

2. 当金庫の目指す姿

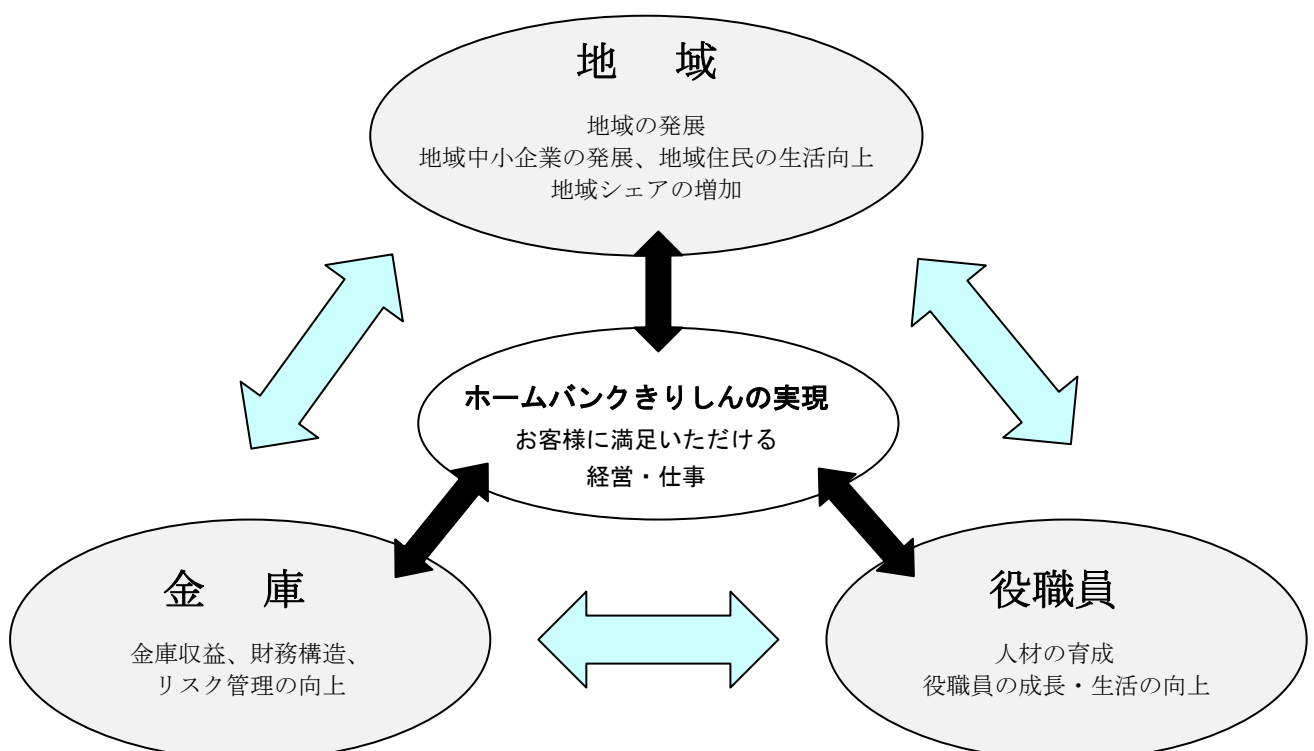
当金庫は、昭和 57 年より「ホームバンクきりしん」を標榜してまいりました。これは各家庭にかかりつけの医師の存在があるように、金融サービスにおけるかかりつけの金融機関、患者に手を当てて一人ひとりの体の具合を診る、それも子供の頃から長い間成長を見てきた医師だからわかる診察と対応、そんなホームドクターのような金融機関となることを目指したものです。このようなスローガンの下に、本店所在地である桐生市、隣接する太田市、みどり市、伊勢崎市、玉村町を重点営業エリアとして活動を行い、この地域の店舗網の充実を通して顧客の利便性を高め、地域の中小企業や生活する人々の支持を得て地域の繁栄に寄与したいと考えています。

この目指す姿を実現するために、さらなるボリュームアップを通じて、預貸率（預金に対する貸出金の割合）の向上を推し進めることが地域での存在感を増し、地域金融機関として生き残っていく必要条件と考えています。『お客様からお預かりしたお金を、地域の発展に役立てること』が最大の地域貢献との認識の下に貸出金の増強に努めた結果、平成 19 年 3 月末の預貸率は 73.1%と全国的にも高率となりました。今後もこの姿勢を貫き、地域金融機関としての役割を果たしていきたいと考えています。

また、社会の流れや金融環境の変化は時々刻々と私たちの業務に改革や変化を迫っています。規制緩和や金融技術革新は業務範囲の拡大をもたらし、「貯蓄から投資へ」の政策転換は個人金融資産の多様化を推し進めようとしています。さらに金融商品取引法施行により、顧客保護・利用者保護の観点から一層説明責任や個人情報保護が重要視され、また、企業の社会的責任の観点からは、経営の透明性・公正性といったガバナンスの強化や内部管理態勢の構築、地域との積極的なかかわりが求められています。

当金庫は、地域貢献という使命を全うしながら、多様化する課題に対しても真摯に取り組み、従業員一丸となって経営目標に向かって邁進しています。

“ 地域になくてはならない金融機関としての存在意義の確立 ”



3. 17年度・18年度の取組と成果

平成17年度・18年度に実施された「地域密着型金融推進計画」においては、当金庫の経営理念・基本方針に沿って、①事業再生・中小企業金融の円滑化、②経営力の強化、③地域の利用者の利便性向上、の各項目実現に向けて取り組んでまいりました。

①事業再生・中小企業金融の円滑化

- ・経営相談・支援機能を強化するため、ビジネスマッチングフェアの開催等によりビジネスマッチング登録企業の拡大に努めた結果、登録企業436社、成約件数94件の実績となりました。
- ・担保・保証に過度に依存しない融資の取組策として、スコアリングモデルを利用した商品を積極的に取り扱った結果、3,622件30,857百万円の実績となりました。
- ・このほかにも、「北関東産官学研究会」との情報交換による産官学の連携開始など、一応の成果をあげられたものと考えます。今後は創業・新事業に対する具体的指導方法及び審査のノウハウ取得が課題と考えています。

②経営力の強化

- ・収益管理態勢の整備と収益力の向上を目指し、企業格付制度を一部改訂し、債務者区分との整合性の検証を進めた結果、整合率は年々高まっています。また、リスクに見合った金利設定のための「ガイドライン金利」適用を強化しました。
- ・法令遵守態勢を強化するため、個人情報一斉点検の実施、パスワード届けの廃棄、不要FDの回収、全役職員での「個人情報保護自己チェック」等を実施しました。
- ・ITの戦略的な活用のための準備として、ネットワーク回線、オンライン端末の更改、パソコンの増設等インフラの整備を行いました。
- ・こうした結果、預貸率の向上、不良債権比率の圧縮等の経営指標は大幅に改善されました。

③地域の利用者の利便性向上

- ・太田市内に1店舗、伊勢崎市内に3店舗を新設するとともに、店外ATMコーナーを7ヶ所（伊勢崎市内3ヶ所、太田市内3ヶ所、桐生市内、前橋市内各1ヶ所）新設しました。
- ・当金庫の考え方や業績等をお知らせする業務説明会を実施し、ディスクロージャー誌・ミニディスクロージャー誌等とともに積極的な開示を行い、あわせて経済講演会や投資セミナーも実施しました。
- ・顧客満足度調査アンケートを実施し、その結果を業務に反映させています。
- ・今後も店外ATMを含めた店舗の新設を積極的に進めるとともに、継続したアンケート実施により、一層の顧客の利便性向上を目指します。

また、個別に掲げた数値目標に対しては、以下のような達成状況となりました。健全性の目安である「不良債権比率」「自己資本比率」、地域貢献の指標となる「預貸率」、地域中小企業の経営支援となる「ビジネスマッチング件数」に対しては、それぞれ目標を達成し一定の成果があったものと考えています。「支援企業のランクアップ率」については、引き続きノウハウの蓄積をはかり向上を図るべく継続努力中です。

数値目標の内容	数値目標	実績
不良債権比率	4%台	4.57%
預貸率	70%台	73.12%
自己資本比率	11%台	11.03%
ビジネスマッチング件数	50件	94件
支援企業ランクアップ率	20%	14.2%(17年度) 15.0%(18年度)

4. 当金庫の新しい計画（19年度・20年度）の主眼と数値目標

平成19年度・20年度においても、前述のとおり、当金庫の経営理念・基本方針に沿った「目指す姿」を実現するため、以下の3つの項目を主眼として「新地域密着型金融推進計画」を進めてまいります。

① 地域密着型金融推進のための態勢整備

当金庫が地域で信頼され、地域とともに発展していくためには健全性を保ち続けなければなりません。そのためには収益基盤の確立と財務の健全性確保は欠かせません。新しい計画においては、「ガイドライン金利の適正化」や「内部管理態勢の整備」により引き続き取組強化を進めるとともに、不良債権比率の圧縮、預貸率・自己資本比率の向上を目標として着実な対応を行ってまいります。また、営業地域内の店舗の再編成とATM網の充実、アンケートの実施などによる顧客満足度の向上に向けた取組みを行ってまいります。

② 地域密着型金融の具体的取組み

地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献に対する当金庫の責任は重大であると認識しています。地域中小企業活性化のため、担保・保証に過度に依存しない融資の積極的な取扱い、ビジネスマッチングなど地域の中小企業の営業支援や、財務面・金融面での経営改善支援によるランクアップを目標として取り組んでいきます。また、当金庫は地域で育ち地域で生きる金融機関として、地域に対する公共的使命と社会的責任を果たすことを経営理念としています。地域の資金を地域に還元するという本業での地域貢献とともに、企業の社会的責任（CSR）の一環としての地域貢献活動にも積極的に参加してまいります。

③ 信用金庫（協同組織金融機関）としての取組み

当金庫は協同組織金融機関であり、「相互扶助」の精神の下に地域の会員の皆様に支えられて存在しています。会員の総意を反映するために、適正な手続きにより選任された総代により運営されているのが総代会です。会員の代表としての組織である総代会の機能向上を図るため、会員の皆様に対するアンケート調査を実施し、その結果を経営に反映させていきます。また、将来を担う人材を育成するために、各種資格取得支援を行うと同時に、企業の将来性・技術力を的確に評価できる「目利き力」強化に向けた研修等の充実を図ります。

④ 新地域密着型金融推進計画に関する主な数値目標

項目	目標値	項目	目標値
不良債権比率	3%台	無担保融資取扱金額	年間 21,000 百万円
預貸率	75%	ランクアップ率	年間 10%
自己資本比率	11%台	ビジネスマッチング件数	年間 80 件

新地域密着型金融推進計画の個別項目の取組み一覧表

主要項目		当金庫の個別項目の取組み	
1. 地域密着型金融推進のための態勢整備	(1) 収益管理の態勢整備	1) ガイドライン金利の適正化	
	(2) 利用者からの評価を業務に適切に反映するための態勢整備	2) 内部管理態勢の整備 ・ 顧客満足度アンケートの実施	
2. 地域密着型金融の具体的取組み	(1) ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化	1) 創業・新事業支援	① 産官学との連携
			② 地域ベンチャー支援センターとの連携
		2) 事業継承、M&A等の側面支援	
	3) 中小企業再生支援協議会の活用		
	(2) 事業価値を見極める融資をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底	1) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進	
		2) 業種別審査能力の向上	
(3) 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献	1) ビジネスマッチングの活用支援		
	2) 地域を担う若い世代や高齢者への金融知識の普及	① 金融教室の開催	
② 資産運用セミナーの実施			
3. 信用金庫(協同組織金融機関)としての取組み	(1) 目利き能力の向上、人材の育成	・ 役職員の目利き能力の向上	
	(2) 総代会の機能向上等に向けた取組み	・ 会員向けの総代会に関するアンケートの実施	
	(3) 信用リスク管理態勢の充実	・ リスク管理手法の高度化に対する取組み	
4. 取組み状況の公表等		・ 進捗状況の公表	